大津小便り

平成二十七年
NO九
十月二十七日（火）
文責　吉良智恵美

後期・・二週間ほど過ぎました。

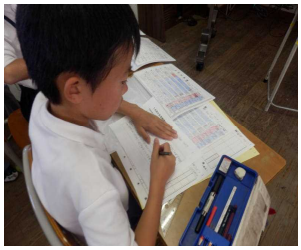
十月十五日（木）に後期始業式を行い、二週間ほどが過ぎました。この間、六年生修学旅行（十八日～十九日）や各学年の見学旅行（一・二年生：二十日、三年生：二十三日、四年生：二十六日）がありました。さらに二十一日は文科省からの学校視察があり、二十四日は、大津町の児童生徒集会でした。

学校全体で見れば、次々に行事が続く感じですが、それぞれの学級・学年に目を向ければ、落ち着いた生活ができているようです。

二十一日（水）の学校視察には、長尾視学官と山田担当官のお二人が来られ、四年一組の「生活数理」の授業研を実施しました。

テーマは「自分のくらしパワーアップ大作戦」。家庭学習と睡眠時間について、子ども一人一人が自分の時間をグラフ化し、前月と比較しながら、互いの生活サイクルのよさや改善点をアドバイスするものでした。

「数理」の視点としては、グラフ化や比較分析になります。生活のアドバイスが欲しいという子に、部活後やゲームの仕方の意見が続出。自分の生活に重なったのかもしれません。最後に「自分の生活をグラフにして考える経験は初めてだったけど大事だと思いました。」と日直さんが発表してくれました。



来月の「教育の日」（十一月十六日・月）は、キラキラ集会を行います。子どもたちのキラキラした姿を、是非、見て欲しいです。お待ちしています。

感動の修学旅行・十八日～十九日

日曜から月曜にかけて修学旅行に行ってきました。平日に比べ、子どもたちはゆとりを持って学習が出来ました。平和公園での集会も本校だけで行うことが出来、周りにいた外国人をはじめ大人の方々も、じっと聞き入っておられました。最後の合唱が終わると、拍手をしてくださる方もおられました。原爆資料館での学習後、語り部の永野悦子さんの話を聞きました。二人のきょうだいを原爆でなくした永野さん。自分が疎開先から二人を呼び戻したから「私が二人を殺した。」と思い、ずっと苦しんできたと話されました。子どもたちは、自分の家族やきょうだいと重ねながら聞き入っていました。感想交流後、お礼に再度、合唱をしました。涙を流して歌う子どももいて、添乗員さんやガイドさん、教員も皆、胸が熱くなりました。「こんなに感動したのは、初めてです。ありがとう。」と永野さんも、言ってくださいました。

翌日は、ハウステンボスで「生活数理」の計画を実践。楽しい思い出になったようです。

解散式では、バスの運転手さんたちから「最後に歌を聞かせて。」と頼まれ、もう一度、合唱を披露した子どもたちでした。曲名は「ハナミズキ」です。バスガイドさんや迎えのお母さんの中には、涙を出して聞いてくださった方もおられました。その時々の思いを歌で伝える修学旅行になりました。

澄んだ美しいハーモニーです。きっと、学習発表会でも披露してくれると思っています。毎年、子どもたちの心の成長を感じさせられる修学旅行です。

平和を祈る折り鶴（全員で折りました）

二日目、ハウステンボスに行く前に行った「無窮洞（むきゅうどう）」です。自分たちと同年齢の子どもたちが掘ったという説明に、驚いていました。広い防空壕内には部屋がいくつかあり、いざという時に、地上に逃げる階段や、空気を取り入れる工夫もしてありました。

平和集会では、自分たちの言葉を伝え、最後に合唱をしました。真剣な姿を、フィールドワークをサポートしてくださる「さるく」の皆さんも見守ってくださいました。

保護者の皆様のおかげで、旅行にも行くことができました。子どもたちには、感謝の気持ちも忘れないでほしいです。